

1 環境目標（基本計画）の達成状況と施策の実施状況

都市化の進展や生活様式の多様化などにより、本市が有する清らかな地下水や豊かな緑などの自然環境は少しずつ損なわれつつあります。また、大量生産・大量消費・大量廃棄に支えられた今日の人類活動により、温暖化など地球規模の環境危機が加速度的に進行しており、今や人類の存亡を揺るがす深刻な問題となっています。

このような中、本市の豊かな環境を保全し、次の世代に引き継いでいくとともに、地球市民の一員として、温暖化をはじめとする地球環境問題の解決に向けて、自らの住む地域から具体的な行動を起こしていくことが、今を生きるわたしたちの責務です。

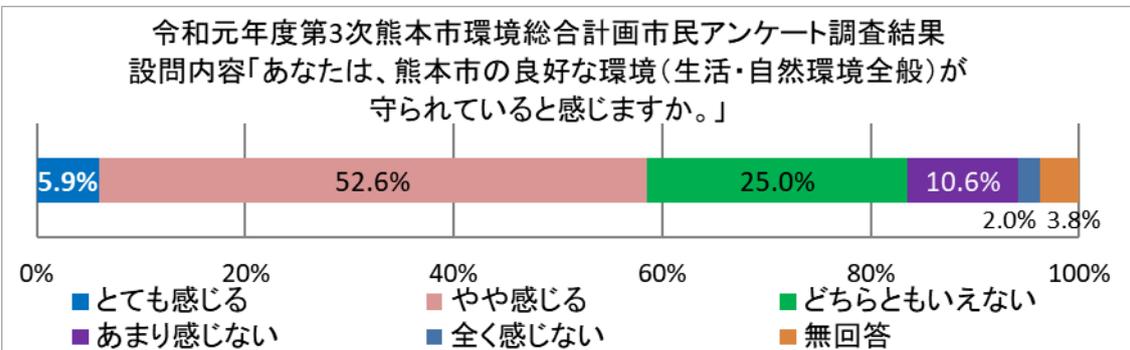
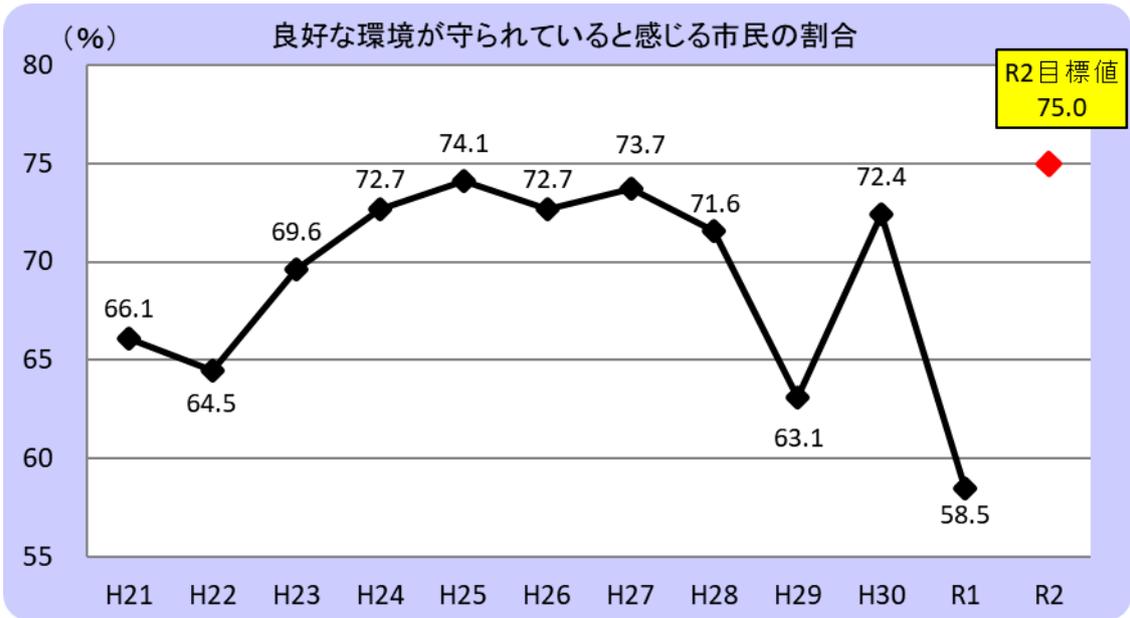
そこで、市民・市民活動団体（地域団体、NPO等）・事業者・行政が、対等な立場で役割と責任を担う協働での取組を推進しながら、市民一人ひとりの環境保全意識を高め、環境に負荷をかけない生活や行動の定着を図るとともに、地下水や緑などの自然環境あふれる、うるおいと安らぎのある良好な環境の形成と持続可能な循環型社会を構築していきます。

本章では、目指す都市像である「未来につなぎ、世界に誇れる環境文化都市」の実現に向けた5つの環境目標に対する施策の実施状況及び今後の課題を示しています。

また、本計画の全体的な目標として、次ページに記載の項目を成果指標として設定しています。

成果指標

項目名	基準値 平成 21 年度	実績値 令和元年度	目標値 令和 2 年度
良好な環境が守られていると感じる市民の割合	66.1%	58.5%	75.0%



平成 28 年熊本地震以降、2 年連続して減少していたものが平成 30 年度に改善傾向に転換したのち、再び減少しました。

ここでの「良好な環境」とは生活・自然環境全般が良好な状態で保たれているかどうかということです。新型コロナウイルス感染症拡大の危機に面した市民の意識が数値の激減（対前年度△13.9ポイント）として表れたものと思われます。

市の施策に関しても、「新しい生活様式」に即した転換を図る必要があります。